

記 事

例会記録

日本医史学会・日本歯科医史学会・日本薬史学会・
日本獣医史学会・日本看護歴史学会 12月合同例会
平成21年12月12日(土)
順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 葛原勾当日記に記載された疾患について
新藤恵久
2. 戦前の日本赤十字社看護人の救護活動
山崎裕二
3. 日本のワクチン受容史
——ジェンナー博物館にて予防接種法を考える
渡部幹夫

4. 薬とは何か 遠藤次郎
5. 日本在来馬と西洋馬
——日欧獣医学交流史と関連して——
小佐々学

日本医史学会1月例会 平成22年1月23日(土)
順天堂大学医学部10号館2階カンファレンスルーム

1. 日本における金瘡治療の展開
～白朝散を中心に～ 森田まゆ
2. 『資料集 日本の精神障害者(戦前篇)』編集に
むけて 岡田靖雄

例会抄録

戦前の日本赤十字社看護人の救護活動

山崎 裕二

はじめに(問題意識)

近年、女性社会である看護職への男性参加が進み、看護師や保健師の男女協働が始まっている。しかし、歴史的にみれば、第二次世界大戦以前(以下、戦前と略称)において、軍隊や日本赤十字社(以下、日赤と略称)、精神病院、ハンセン病療養所などに男性看護人が存在し、看護婦と協働していた。その中には看護婦と同様に近代的な看護の知識・技術の教育を受けた男性看護人も存在した。これら男性看護人の歴史はいまだ十分に明らかにされていない。以下、日赤看護人についてその救護活動を中心に報告する。

1. 養成

軍隊における傷病兵救護を目的とする日赤の看護婦は1890年に、看護人は1896年に養成が開始された。入学資格年齢は、看護婦が16歳以上30歳未満、看護人が20歳以上40歳未満であった。修業年限は、看護婦が3年、看護人は10ヶ月(前期5ヶ月は学科、後期5ヶ月は実務練習)であり、養成場所は、両者ともに日赤本社病院および支部病院であったが、看護人の後期は最寄りの陸軍衛戍病院であった。学科目は、解剖及生理・看護法・治療介輔・手術介輔・繃帯法・救急処置・患者運搬法・衛生法大意で看護婦と看護人で大差なかった。養成数は、1890～1922年において看護婦